

『訪問リハビリにおける自動車運転再開支援の必要性について』

○師岡一寧

【はじめに】当院では平成 27 年より高次脳機能障害者を対象に自動車運転再開支援チームを発足し活動を行っている。自動車運転再開支援(以下:運転支援)の必要度を把握する目的で、当院回復期に入院した脳血管障害患者を対象とし、退院後の運転再開希望とその目的などを聴取するためアンケート調査を実施。結果から訪問リハビリテーション(以下:訪リハ)の運転支援の必要性が示唆されたため、以下に分析し報告する。

【方法】平成 27 年 11 月～平成 29 年 11 月に当院回復期病棟へ入院した脳血管障害者 194 名を対象とし、患者・家族に対し自動車運転に関するアンケート調査を実施。

【結果】有効回答数は 138 名、回収率は 71%。対象者の免許保有率は 48%であり、そのうち退院後に運転再開希望者は 55%にも上った。運転目的は「買い物」が最も多く 58%、次いで「通勤」「余暇」「職場での使用」「通院」となった。運転頻度は平均週 5.2 回、1 回の運転時間は 30 分以上 1 時間未満が多く、運転に対する不安については「特になし」がトップで 37%、次いで「運転操作能力・技術」が 22%となった。

【考察】山や川に囲まれた当地域の特性上、運転目的が生活に必要不可欠な行為に集中する為、運転という行為を奪われることは死活問題となる。高次脳機能障害者が現実検討能力の乏しさから、運転への不安感に対して「特になし」と多く回答している。独断で運転を再開する事は重大事故に繋がる可能性が考えられ、訪リハにおいて運転支援(運転評価機関の勧め、連携機関への情報提供、自動車停車時動作評価、練習)を実施する必要性の高さが示唆された。また運転が困難だと判断された方へ代償移動手段一覧表を使用し、その方に合った移動方法を提案していく事が重要と考えた。しかし外出に対しての移動支援サービスが圧倒的に足りず、啓蒙活動を含めた移動支援サービスの復旧に繋がる取り組みを実施していく。